

## 巻頭言

# CNCP を楽しい活動にしよう

(特非) シビル NPO 連携プラットフォーム 理事  
代表理事 山本 卓朗



明けましておめでとうございます。

オリンピックまであと3年、日本中がさらに忙しくなるような気がします。特にプロジェクトを担当する建設界などは、私の古巣である JR を見ていると目一杯の仕事に追われているようです。

さて自分自身が75歳を過ぎ、高齢者の立場で周りを見ているせいかもしれませんが、一段と高齢者の姿が目立ちますし、マスコミに取り上げられる報道も高齢者関連が多くを占めるようになってきました。そして若手に過度なロードがかかっている世の中、私を含めいわゆるアクティブシニアの社会活動参画が強く求められていると思います。しかしながら、CNCP は土木学会 100 周年事業の一環としてスタートしてから既に3年になる NPO ですが、活動の輪が思ったほど広がっていないことが大きな悩みです。まずはより多くの土木系（シビル系）の皆さんの参加を促し、さらにその輪を一般社会へと広げていきたいと念じています。その課題として2点お話しします。

## 1. 今の CNCP 活動は、果たして楽しい活動であるか？

こういう書き方は穏当を欠くと思われるかもしれませんが、稼ぐための会社勤めであっても、毎日がうんざりする楽しくない仕事環境では、転職が頭をよぎるかもしれません。ましてや無給で生きがいを求める活動であれば、“楽しい活動”になっているかどうかは大変重要だと思います。別に歌ったり踊ったりするのが楽しいわけではない、至極真面目な取り組みを如何に楽しくやるかという工夫が必要であるということです。そういう目で今までの CNCP 活動を振り返ってみると、活動のやり方が真面目すぎて硬いのではと思うのですが如何でしょう。

## 2. CNCP、シビル NPO 連携プラットフォームって何？ そもそもシビルって何？ という疑問に答えていないのでは？

長年土木屋をやっていると、土木を“シビルエンジニアリング”というのは当たり前ですが、昼食を“ランチ”と言うのが如く、誰でも知っていると思うのは大間違いですね。シビル CNCP などの言葉を広め、社会と繋ぐ努力をしてこなかったことを CNCP の名付け親の一人として猛省しています。昨年 CNCP アワードの第一回を行ってその思いを強くしました。担当の皆さんが苦心して作ったチラシについて“わからん！！”という審査委員の皆さんの辛口（いや、親切な助言！）に感謝です。今年早々に、広報やウェブなど情報ツールに詳しい方に参加してもらい、“広げる繋ぐワーキング”を始めることにしました。この CNCP 通信についても新鮮な視点で議論して頂く所存です。

今年も課題山積ですが、皆さまのご支援よろしく願いいたします。

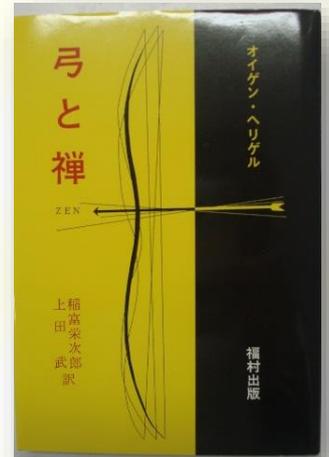
## 最近の小事その3

有限会社 仁礼  
取締役 星野 隆幸



好きなラジオ番組に、武田鉄矢の今朝の三枚おろしがある。その中で、「弓と禅」の紹介の回があり、興味が湧いてきたのでさっそく取り寄せて読んでみた。

内容は、ドイツ人大学教授、哲学者オイゲン ヘリゲルが日本の大学で教鞭をとっていた 6 年間に弓道に出会いその事を帰国後に講演会の原稿として書き留めたものが出版されたものである。日本に滞在していたのも戦前のこと、ドイツで出版されその後、昭和 15 年日本でも出版された。その本が現在でも版を重ね出版され続けているのである。さらに昨年、世界的に著名な人物の座右の書としてその人の本棚に置いてあったことで再度ブームに火が付いた、その人物こそ、アップルの創業者、スティーブジョブズその人である。



「弓と禅」を読んで、心に残ったことがある、ある日、何度矢を射っても的に当たらないヘリゲルは、師である阿波研造師範に問うた、「如何に射てば的に当てることができるのか」、師が答えた、「すべての矢が的に当たればそれは弓道でなく見世物である。また、あなた自身で修練もせず、そのことを教えたならば、私は追放されるべきです、さあもうこの話はやめて練習しましょう。」、そしてもう一言、「射に失敗してもその事に腹を立ててはいけません、射が上手くいってもその事を喜んではいけません、快・不快の間を行き来することから離れなければなりません。」そんな言葉にヘリゲルは、日本人に流れる日常的な禅を感じたのではないのだろうか。

最近辞書を引く姿を見かけなくなった、辞書を引くことで、全く違う言葉が視界に飛び込んでくる、その事により沢山の言葉を知ることが出来る喜びをパソコンの検索では味わえない。読書にしても然り、電子ブックが普及し、図書館や書店に行くこともなくいつでもどこでも読書ができる、確かに利便性を考えれば肯定すべきだろう、だが、感傷的と思われるかもしれないが、インクの匂いやページをめくる感覚、視覚だけでなく五感に訴える本という印刷物が持つ不思議な魔力が私を魅了して止まない。先端技術が発達するのは歓迎すべきだが、それに頼り切っている現状は憂慮すべきことだと感じる。

建設業関連の講習会で講師を務めることがある、建設業者へ建設CALS推進の講義だが、時間の制約の中どうしても結果重視の講義になる、汗を流し泥にまみれ朝から晩まで現場に追われていた時代から、現場でも会社でもPCに囲まれ、膨大な書類の中で、もがき苦しむ時代になった、それでも次代を担う新人技術者を育てる時間を確保しつつ現場や書類整理に従事するベテラン先輩技術者達の苦悩が伝わってくるようだ。

ヘリゲル教授は哲学の教授なので、文章も哲学的思考と当時の文体で書かれてあるので、読みにくいとところもあるが、解説本も出版されるほどの書物なので、興味のある方はぜひ一読をお勧めする。私たち日本人が持っていたもので忘れかけたものを気付かせてくれるきっかけになるのかもしれない。

## NPO ファイナンス（４） ソーシャルインパクトボンド（SIB；社会的インパクト債）

サービス提供部門 担当常務理事 有岡 正樹

CNCP 通信では「NPO ファイナンス」と題してこのトピックス欄で、シリーズ物としてその折々の関連する話題を提供しているが、前(2)、(3)では筆者が参画している「ソーシャルファイナンス研究会」で学んだことを話題としていた。その中で触れてきたソーシャルインパクトボンド(以下 SIB)について紹介しておきたい。

### (1) SIB との出会い

筆者は長年にわたり公共事業の PFI 事業化に関わってきて、民間資金導入の仕組がその成否を握る重要な要因であることを学んできた。そんな現役時代を経て NPO 法人活動に関わって数年後、民間の資金を導入して社会的課題を解決する公共政策を遂行する手段として BIS が注目されていることを知り、3年前にこの分野での先駆者である明治大学経営学部塚本一郎教授が主催する「日本版 SIB 研究会」に参加させてもらうことになったのが、SIB に関心を示したきっかけである。その後、上述の「ソーシャルファイナンス研究会」や日本 NPO 学会、日本財団他諸団体が主催するセミナーなどに出来るだけ参加するようになってきた。

### (2) SIB とは

SIB に関連しては、昨年末に上述の塚本一郎教授他が、その分野の図書としては日本で最初の「ソーシャルインパクトボンドとは何か」(ミネルヴァ図書)を出版されて、昨年 12 月 12 日明治大学で約 80 名のその分野に関心の深い視聴者を招いて出版記念講演会が開催され、CNCP も協賛者として会員および土木学会 PFI/PPP 研究会メンバーが多数参加した。その図書の「はしがき」によると、SIB とは「社会状況の改善に民間資金と官民連携の仕組みを活用して取り組むスキームであり、社会的プログラムの運営費用を公金ではなく、民間調達の投資資金で賄い、事前に設定された成果指標を上回るインパクトが達成できれば、政府が投資家に対してリターンを支払う仕組みである」と定義している。これを図示したものが図-1 および図-2 である。PFI 事業手法に知見のある読者には、仕組みとして極めて類似した構図であると直感されよう。

### (3) 海外での、そして日本での動向

SIB は英国で 2010 年最初に導入されてまだ日が浅く、その投資額まだ社会的投資の 1%に過ぎないが、2年後の 2012 年英国で開催の G8 でも取り上げられたこともあり、それを機にアメリカやオーストラリア等で少しずつ普及され出している。欧米での適用対象は、再犯防止、ホームレス支援、幼児教育といった社会(対人)サービスが中心である。一方日本でも、閣議レベルでその意義や適用の可能性について取り上げられ出したり、一般向けでも主要新聞社説や NHK テレビクローズアップ現代などで取り上げたりしているが、実務的には、まだ社会実験の端緒に過ぎない。日本での適用分野としては地域活性化、空き家対策、さらにはインフラの維持管理等も考えられるので、日本版 SIB モデル化の研究に CNCP として関心を持ち続けたい。

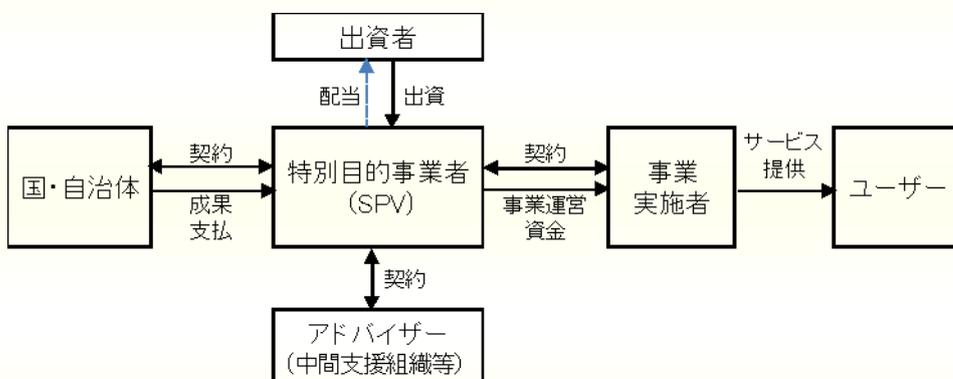


図-1 SIBスキームの概念図(参考:上述図書)

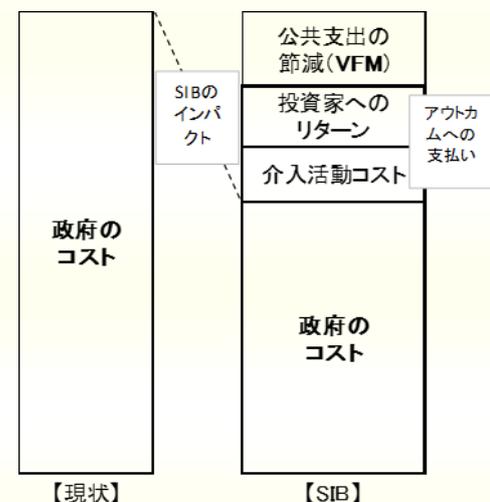


図-2 SIBのファイナンスモデル(同上)

設立：2007年12月、認定取得：2016年11月

## 団体活動目的

道普請人は、「開発途上国の問題は、現地に適したやり方で、そこに住む人々自身で解決していく」ことの実現を目指す。人々が自ら汗を流して普段利用する自分たちの生活社会基盤（農道やため池等）の改修や維持管理を行うことにより、社会経済活動を活性化する。そして、人々の生活環境改善に向けたやる気と自信を引き出す。

地方や農村の持続可能な開発に向けたきっかけづくりをし、世界の貧困削減に寄与することを目的としている。

## 会員

団体会員 20 団体、個人会員 159 人（2015 年度）

## 団体の主な活動

開発途上国のこれまで開発の手が届かなかったような地方部や農村部にて、住民参加による未舗装道路、灌漑施設や河川護岸の整備、植林、環境保全型農業の実施に向けた技術協力活動を実践している。雨季でも車両通行が可能であるような道路路盤構築、洪水対策としての堤防や護岸の建設や補強、苗床や小規模擁壁の設置、土壌流出防止対策工について指導している。アジア、太平洋州、アフリカ、中南米の国々で、住民、農民組織、若者グループに対して、彼ら自身による生活社会基盤整備活動を支援するために、「土のう」の利用方法を中心に適材適所に使える様々な技術の移転を行っている。

2016年9月末までに25ヶ国、145kmの道を、21,690人の人々とともに整備した。

## 受賞歴

- ・ NPO 法人シビル NPO 連携プラットフォーム主催 CNCP アワード 2016、ベスト・プラクティス部門、最優秀賞
- ・ 土木学会 100 周年記念事業第一回市民普請大賞 2014、準グランプリ



シニアエンジニアによる、施工指導  
(タンザニア)



国連開発計画（UNDP）親善大使で女優の紺野美沙子氏が土のう工法体験  
「アフリカの人々の気持ちに寄り添って活動」（ケニア、2016年8月）

認定 NPO 法人 道普請人

理事長 木村 亮

URL: <http://coreroad.org/> E-mail: [info@coreroad.org](mailto:info@coreroad.org)



## 「インフラメンテナンス国民会議」近畿本部の発足

自治体インフラメンテ研究会西日本地区幹事 小谷 義博

平成 28 年 11 月 28 日の総会で設立した「インフラメンテナンス国民会議（以下、国民会議）」の概要については本 CNCP 通信 32 号で紹介されているが、その中で主要業務を行う 6 つのフォーラムの一つである近畿本部に関係しているため、その経緯と活動方針等について紹介しておきたい。

### 1) 近畿本部発足の経緯

「国民会議」については、その設立に向けての大規模な意見交換会が平成 27 年 12 月及び 28 年 4 月の 2 回に分けて、国土交通省総合政策局の主催で開催され、そこで得られた多種多様の課題を集約して、当面の 7 つの戦略として論点整理がなされた。その後 6 月から 10 月にかけて、月に 2, 3 回の割合でそれらの戦略に基づきいくつかの主要な課題について勉強会が開催され、それが「国民会議」の主要な議論の場である 6 つの公認フォーラムに結びつき、その 1 つとして近畿本部に発展したという経緯がある。

その後平成 28 年 10 月 20 日の発足準備会を経て、12 月 15 日国交省国土政策局および近畿地方整備局の関係者を招いて近畿本部の発足式が執り行われた。

### 2) 近畿本部の目的と役割

- 【目的】
- ① 近畿地方における革新的技術の発掘と社会実装
  - ② 近畿地方における企業等の連携の促進
  - ③ 近畿地方におけるインフラメンテナンスの理念の普及。
  - ④ 近畿地方におけるインフラメンテナンスへの市民参加
- 【役割】
- ① 自治体支援を目的としたグループ討議の開催
  - ② 自治体のニーズ等の収集と情報発信・民間のシーズ等の収集と情報発信
  - ③ メンテナンス技術の提案・議論の場の開催
  - ④ 企業マッチングのコーディネート等

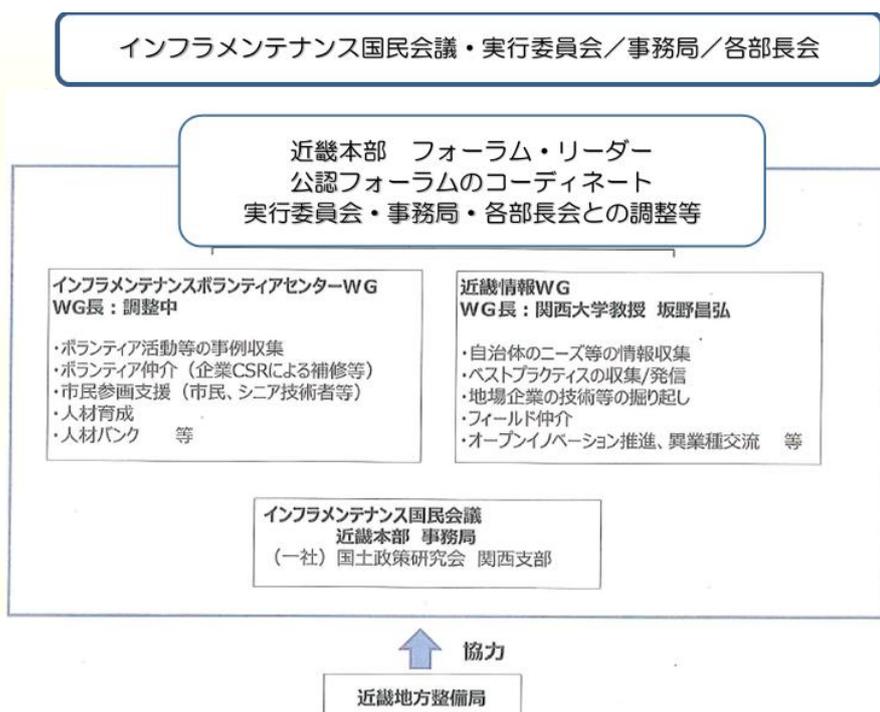
### 3) 組織と当面の活動

近畿本部発足時の組織は右図の通りであるが、当面の具体的活動としては、

- ① 自治体のニーズ等の収集と民間のシーズ等の収集と整理、及びそれに基づくフォーラム開催
- ② ワーキンググループの基盤醸成と平成 29 年度活動スタートに向けた取り組み

が上げられている。

近畿本部の事務局は(一社)国土政策研究会関西支部が担当しており、その組織の厚い層からの人材の派遣もある。CNCP もその研究会の一員として積極的にその活動に関わり、全国の地方展開にも寄与したいと考えている。



# 「美し国づくり景観大賞」から 「美し国づくり大賞」へ

NPO 法人 美し国づくり協会会員  
たかひろ  
CNCP 監事 山岡 和彦



## 1. これまでの「美し国づくり “景観大賞”」の取組み

美し国づくり協会は 2015 年に協会設立 10 周年を記念して「美し国づくり景観大賞」表彰事業を創設し、第 1 回の美し国づくり景観大賞には『水辺風景の再生「水・緑、ともに生きる豊かな暮らし（東京都江戸川区）」を、特別賞には『コウノトリと共に生きる地域を目指して～放鳥から 10 年を迎えた景観～（コウノトリ野生復帰推進連絡協議会）』と『景観に配慮した防護柵の設置による道路景観の形成（国土交通省東北地方整備局 企画部企画課）』を選定しました。

また 2016 年の第 2 回では、美し国づくり景観大賞に『肥前浜宿における佐賀県遺産の保存活用に向けた取組（NPO 法人肥前浜宿水とまちなみの会）』を選定し、特別賞には『鎌倉の聖域御谷（おやつ）の景観を守る（公益財団法人鎌倉風致保存会）』を選定し、各回とも表彰式に続いて講演会および意見交換会を行い、これらの素晴らしい事例が模範となり、日本の各地で地域の特徴を生かした多様な取組みがなされることを願ってまいりました。これらの内容は 3. のホームページに紹介されております。

## 2. 「美し国づくり “大賞”」への発展・拡大

当協会は、日本の素晴らしい歴史、文化、自然というものを土俵において、豊かな日本をつくることを目標としております。言い換えれば、日本の「国土の景観の多様性（Landscape Diversity）」の実現することにあります。今回から、これまで取り組んできた「美し国づくり “景観大賞”」を発展・拡大し、多様な側面・視点の中から『木』を切り口とした表彰事業を企画することに致しました。

『木』の持つ特性や『木』がある地域の特色・個性を生かし、その創生、保存、再生によるまちづくり、地域づくり、景観づくりに成果を上げている取組を表彰し、広く発信していきたいと思っております。ここに、『木』とは樹木単体や街路樹、森や林などの自然もあれば、木造建築などの人工物も該当しますので、『木』を活用した様々な取組が対象となります。

## 3. 「美し国づくり大賞」募集中

募集期間 2016 年 12 月 15 日～2017 年 3 月 11 日  
応募詳細 ホームページをご覧ください [www.umashi\\_kuni.com](http://www.umashi_kuni.com)  
問合せ先 メールでお願いします [info@umashi-kunu.com](mailto:info@umashi-kunu.com)

建設分野におけるソーシャルビジネス事業の発掘を目指す!

# CNCPアワード 2017募集

募集期間

平成28年 平成29年  
12/1(木) → 4/30(日)  
午後5時必着

## 趣旨

建設分野におけるソーシャルビジネスの普及を進めるため、社会的課題の解決を図る優れた事業を顕在化して称賛し、広く周知させることを目的としています。また、今後、建設分野における多くの実績あるソーシャルビジネスを広く社会に公表することで、建設界に対する社会の理解を進めることも目的としています。

建設分野とは、広く市民生活に関わる「ひとづくり」、「まちづくり」を対象とした分野であり、具体的には「安心・安全」、「河川・水辺」、「道路・交通」、「住まい」、「自然・環境」などに関する事業を通じて、より良い社会へと改善していく分野を指します。

## 2017年 CNCPアワード 募集部門

**ベスト・プラクティス賞** ●最優秀賞：1点 ●優秀賞：数点  
建設分野において、優れたソーシャルビジネスを展開している事業

**ベスト・アイデア賞** ●最優秀賞：1点 ●優秀賞：数点  
建設分野において、優れたソーシャルビジネスとしての事業企画(アイデア)  
副賞としてそれぞれ最優秀賞10万円、優秀賞5万円が授与されます。

## 応募条件

次の3つの要素を全て満たすこととします。

- ①社会的課題を正しく捉えていること。
- ②建設分野における工夫のある事業であること。
- ③ビジネスの形態で3年以上継続的に活動している事業であること。

※③については、ベストアイデア賞では継続性が期待される事業であること  
※左記を満たす個人・法人・団体、国内・海外を問わずどなたでも応募できます。

## 選定委員会



粉川 一郎氏  
武蔵大学教授



藤井 政人氏  
国土交通省 総合政策局  
事業総括調整官



山田 菊子氏  
東京工業大学研究員



田村 裕美氏  
(一社)ソーシャルテクニカ  
代表理事



山本 卓朗氏  
CNCP代表理事

## 募集要項

応募用紙はこちら⇒ URL:<http://npo-cnnp.org/award2017/>



《お問合せ先》 NPO法人 シビルNPO連携プラットフォーム

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目13番地7 名古屋ビル本館2階 コム・ブレイン内 担当:内藤 E-mail: [award@npo-cnnp.org](mailto:award@npo-cnnp.org)

【後援】国土交通省・公益社団法人 土木学会

## 南房総 CCRC 事業研究会（フェーズⅠ）募集

特定非営利活動法人 シビル NPO 連携プラットフォーム  
CNCP シンクタンクチーム

### <活動期間>

フェーズⅠ：平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

### <募集対象>

フェーズⅠ：CNCP 会員および CNCP サポーター

### <参加費用>

フェーズⅠ：法人正会員 3 万円、個人正会員および CNCP サポーター 1 万円、  
賛助会員（法人）10 万円

## 事務局通信

### 1. 1 月の会議予定

- (ア) 1 月 10 日(火) 14:00～16:00：運営会議
- (イ) 1 月 10 日(火) 16:15～17:30：教育研修委員会
- (ウ) 1 月 25 日(水) 14:00～17:30：自治体インフラメンテ研究会
- (エ) 1 月 27 日(金) 10:00～12:00：シンクタンクチーム
- (オ) 1 月 30 日(月) 15:00～17:00：NPO ファイナンス研究会

### 2. 1 月 1 日現在の会員数

法人正会員 18、個人正会員 25、法人賛助会員 34 合計 77

事務局

お問い合わせは  
こちらまで

**特定非営利活動法人**

**シビル NPO 連携プラットフォーム**

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目 13 番地 7  
名古屋ビル本館 2 階 コム・ブレイン内

事務局長 内藤 堅一：[info@npo-cnnp.org](mailto:info@npo-cnnp.org)

ホームページ URL：<http://npo-cnnp.org/>